

第 56 回 つくば歩の会「水海道散策とアサヒビール工場見学」のご案内

常総市水海道は、都心から比較的近い場所でありながら、自然が豊かで歴史的な建物が数多く残っています。かつて両国と水海道間には、蒸気船が就航していて、水海道は物資の集積地でもありました。

アサヒビール守谷工場は、広大な敷地、水と緑の潤いあふれる自然豊かな工場です。地上 60m の「アイムタワー（試飲会場）」では、できたてビールなどの試飲ができます。（試飲は 20 分間で、タンブラーで 3 杯までです。ソフトドリンクもあります。）

日 時 : 2016 年 10 月 4 日（火）

集合場所と時間 : 常総線水海道駅 改札口 午前 9 時 20 分集合

担当幹事 : 林憲司 (090-7944-9310)、町田良一 (04-7149-2255)

費 用 : 2,000 円 (昼食、飲物代)

1. コース ; 徒歩 約 4 km

水海道駅スタート(9:25)→徒歩 8 分→武道館(9:45)→徒歩 10 分→二水会館(10:00)→徒歩 10 分→水海道天満宮(10:20)→徒歩 15 分→五木宗レンガ蔵(10:40)→徒歩 5 分→八幡神社(11:05)→徒歩 8 分→旧報徳銀行水海道支店(11:20)→徒歩 10 分→水海道駅(11:34)→守谷駅(11:44)→昼食→守谷駅(送迎バス 13:00)→アサヒビール守谷工場(見学 13:30~15:00、送迎バス 15:20)→守谷駅 (15:30) 解散予定

2. 昼食

「石挽蕎麦と炭火焼 一成 - ichinaru - 守谷店」 TEL 0297-46-4441

つくばエクスプレス 守谷駅東口 徒歩 1 分 アワーズ守谷の 2 階

昼食は「井ぶりと蕎麦セット」で、A 親子井・B 天井・C しらす井・D まぐろづけ井に蕎麦（冷、又は温）が付きます。参加申込の際に、井の種類と蕎麦の冷か温をお知らせ下さい。

3. 交通案内

1) 常磐線 土浦、牛久方面から、取手駅で常総線に乗換

土浦 (8:14) →荒川沖 (8:19) →牛久 (8:32) →取手 (8:44) 乗換 8:48→水海道(9:20)

2) 常磐線 柏、我孫子方面から、取手駅で常総線に乗換

柏 (8:24) →我孫子 (8:32) →取手 (8:40) 乗換 8:48→水海道(9:20)

3) 東武線 柏方面から、流山おおたかの森で TX に乗換、守谷駅で常総線に乗換

柏 (8:43) →流山おおたかの森 (8:48) 乗換 8:53→守谷駅 (9:03) 乗換 9:09→水海道(9:20)

4) TX つくば方面から、守谷駅で常総線に乗換

つくば (8:45) →守谷 (9:03) 乗換 9:09→水海道(9:20)

4. 名所案内

武道館 (旧水海道小学校雨天体操場兼講堂)

武道館は、昭和 7(1932)年 5 月に、水海道小学校の敷地内に雨天体操場兼講堂として竣工した。木造平屋建、切妻造、スレート葺で、内部は格天井、床板張でステージも設けられていた。昭和 29(1954)年の市制施行に際しては、ここで市制施行祝賀式典や市議会が開かれるなど、学校施設としてのみならず、市の重要な役割も担っていたことが伺われる。昭和 48(1973)年の水海道小学校移転にともない、同地に建設された水海道公民館の附属施設武道館として、ステージの一部撤去などの改修が施され、現在は広く市民の利用に供されている。

二水会館 (旧水海道町役場)

大正 2(1913)年、現在の栄町字宝洞宿に水海道町役場庁舎として建てられた。表が洋風、裏が和風という二重構造は、接客としての洋館と生活の場としての和館を持つ明治期の邸宅や、応接間を洋室としその他は和室で構成される大正期の文化住宅等と同様である。外観は窓を上下 2 段に配し、間に胴蛇腹を廻して 2 階建風に造られているが、実際は平屋である。玄関ポーチにはキャノピーが付き、全体としては洋風の感じが良く出ているが、キャノピー柱の持ち送りなどに和風の線が見られ、伝統的技術を以って西洋風のスタイルを具現化させるといった、明治初期の擬洋風建築に通じるものがある。昭和 59(1984)年に、市立図書館敷地内に移築され、保存・活用に努めている。

水海道天満宮

水海道天神社は、菅原道真を祭神とし、後村上天皇の御代(1339～1368) に創始されたと伝えられる。水海道城主田村弾正一族の氏神として崇拝されてきたが、現存する本殿は永禄 9(1566)年に当地の豪族の手により再建されたものという。

一間社流造、鉄板瓦棒葺で、以前は茅葺であったと推察される。木鼻・臺股・斗組・虹梁などの絵模様繰方、垂木の形状などに安土桃山期の特色を示すとともに、各部材に残る彩色の跡など注目すべきものが多い。背面の羽目板の「虎と竹子」、脇障子の「流水と鳥」、長押の輪違文様などが風蝕の差となって残り、往時の姿を偲ばせる。桁行 1.85 メートル、梁間 1.6 メートル。

五木宗レンガ蔵

水海道河岸には「鬼怒川の水は尽きるとも、その富は尽くことなし」と称えられた豪商たちが店を連ねた。有力な問屋の一つである五木田家は、代々「宗右衛門」を名乗り、「五木宗」と称していた。醤油の醸造販売の傍ら廻漕業も営み、会津藩の廻米を扱うなど水海

道河岸における水運の中心的な役割を担った。こうした繁栄ぶりを今に伝えているのが、このレンガ蔵である。

八幡神社（住職の説明あり）

八幡神社は、戦国時代に当地の城主田村弾正の守護神として祀られていたが、天正5(1577)年に戦死した後、次第に荒廃し、水海道村名主秋葉権左衛門や村民五木田弥次兵衛が再興のため奔走し、延宝5(1677)年に御城（字八幡畑）から現在の地に移して祀ったと伝えられる。

一間社流造、柿葺で、棟札より延宝5年の造営と知られる。幕末か明治初期に建てられたと思われる覆屋に納められたため、比較的良く保存されており、龍の丸彫、天岩戸神話図、唐風の人物図、脇障子上の牡丹などの彫刻はいずれも粋を凝らした見事なものである。昭和30(1955)年には、彩色の手直しや基礎を1メートル程あげる修理が行われた。桁行1.8メートル、梁間1.6メートル。

旧報徳銀行水海道支店

旧報徳銀行水海道支店は、大正元(1912)年に水海道町字五本榎（現水海道諏訪町）に設置された。現存する建物は、大正7～12(1918～1923)年に現在の場所に建築されたといわれている。報徳銀行は、大正13(1924)年には、合併して東明銀行となり、以後幾度かの統廃合などを経て、平成18年に株式会社関東つくば銀行より常総市が譲り受けた。

煉瓦・木造、亜鉛メッキ銅板葺、陸屋根、2階建て、屋根の構造、正面玄関上のペディメントの喪失や昭和58(1983)年の火災による内部改修によって変更された箇所はあるものの、当初の面影を色濃く遺している。市内の銀行建築では、同時期のものはなく、貴重である。

アサヒビール守谷工場見学

見学コースでは、案内係がビールの製造工程やミニ知識を楽しくご紹介します。見学の後は、工場できたてのアサヒスーパードライの鮮度を実感できます。見学は、映像鑑賞 → 工場見学 → 試飲の90分間です。

工場見学で楽しめる3つのポイントは、「見る、触れる、飲む」です。仕込釜やろ過室、びん詰・缶詰など、「うまさ」への取り組みを見ることができ、また、原材料や各種展示など実際に触って身体で感じる体験ができます。

試飲はビール工場ならではの楽しみ！ 工場できたてのビールが無料で試飲できます。尚、ソフトドリンク（ノンアルコール、スポーツドリンク、三ツ矢サイダー、十六茶など）もあります。